



平成27年度新規就農者

遊佐 宏文



▲畑の雑草を日々把握

一、ハウス内輪作への取り組み

農業者になるにあたり私は施設栽培を選びました。農地法によれば、北海道で農業を実施するには露地で2ヘクタールの耕作を基準とするとのことであり、非農家であった私としては農地取得の金銭的な制約もあって、狭い農地で可能な施設栽培に取り組むことにしたのです。しかし、ハウス建設に認

識していませんでした。北京オリンピックを境に鉄の値段が高騰したとの話をよく聞きますが、自分の身に降りかかってくるまでには思いもしませんでした。自衛官人生を全うした対価としていただいた退職金も使ってしまったので、健康第一で一日でも長く農家を続けることが必須となりました。

多大な出費をしたハウスですから、露地ではかなわない冬季営農にも取り組むことにした訳です。私の百メートルハウス1棟は通常の百坪ハウス2棟分ですので、通年営農すると、夏季だけ営農する方々の4棟分のハウスをもっていることになりました。当然、冬季間の栽培効率は極端に低下しますが、妻と二人の労力で毎日少しずつ、一年中働き続けることに魅力を感じています。自衛隊は全天候型ですし、台風だろうが吹雪だろうが毎日訓練に励んでいたのですから、40年間の自衛官人生がそのまま継続しているともいえます。

ハウス内には常に何かが生育していますので、必然的に輪作に留意することとなるざるをえません。研修中に連作による障害発生の事例を見聞したこともあり、当初からミニトマトだけでなく様々な野菜の栽培に取り組むことにしました。中でもJAいしかり試験圃場で取り組

でいた生姜には大きな可能性を見出すことができました。生姜はタネ生姜の値段が相当高いこともあり決して利益率の高い作物ではないのですが、試験圃場で教えていただいた灌水量がミニトマトの灌水と近いと分り、輪作作物として栽培することにしました。もちろん有材心破という土壌改良が前提のうえですが、北海道産の生姜がほとんど出回らないなかで直売所に出荷できることに農業者として多少の喜びを感じる次第です。お寿司屋さんでは生姜のガリばかりを食べるほど生姜大好き人間で良かった訳です。



▲生姜を輪作作物に取り入れ

このほかには、コンパニオン・プランツ（共生作物）により連作障害を回避することにも取り組んでいます。それはミニトマトとニラの混植です。ミニトマトの連作障害の一因にフザリウム菌というカビが関与して

いるとの文献を読んだことがあり、そのカビがニラの根を嫌っていると知り、営農開始と同時に混植を始めました。まだその効果を評価できる段階にはありませんが、継続は力なりです。



▲ミニトマトとニラの混植

二、客単価向上のために多品種野菜を栽培

ハウス内輪作は必然的に多種多様な野菜の栽培をすることとなりますが、直売所に出荷してみても痛感するのは、いくらよいものを出しても一人のお客さんがミニトマトやレタスの袋を二つ以上買ってこれないということです。ミニトマトのほかに生姜、小かぶ、ピーマン、ケールやパクチーなどを出荷すると一人のお客さんが二、三袋買ってくれるのではないかとという客単価向上を大いに期待して毎日とれのさとに通っています。(了)

(平成三十年五月十日記)